

	5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
○需給協議会の開催時期					● 第7回 (6/23)									● 第8回									● 第9回
○情報委員会の開催時期				● 第4回 (6/11)									● 第5回									● 第6回	
(1) 生育・出荷情報の拡充・強化 ① 独自の情報網の整備  【方向性】 都道府県野菜価格安定法人への委託事業や産地情報調査員設置事業（補助事業）を活用することにより、当機構独自の情報収集体制を構築する。（当面は電話による聴取で対応）	<p>●小売価格調査の開始のための委託契約の変更事務</p> <p>●産地情報調査員設置事業への参加促進及び事業計画の検討等</p> <p>●小売価格調査の実施（7月から）</p> <p>●産地情報調査員設置事業（うち生産出荷状況調査関係）の実施（7月から）</p> <p>●調査結果の情報委員会への提供（第5回から）</p> <p>●調査結果の情報委員会への提供（第5回から）</p>																						
② 産地情報の範囲の拡大  【方向性】 よりの確かな情報とするため、委員会で対象とする主産地の範囲をカバー率60%まで引き上げ、さらに、代表的な先行産地についても範囲に追加する。	●第4回から開始																						
(2) 気象データの充実 【方向性】 ① 気象予測の精緻化 可能な限り主産地に特化した予測となるよう、対象地域の絞込を行うとともに、予測の期間も長期から短期に切り替える。  ② 分析項目の追加 ・前年と当年の気象概況の比較 ・最近の気象条件の変化	<p>●民間気象会社等情報提供機関との調整</p> <p>●第5回から開始</p>																						
(3) 収穫期及び収量の予測モデルの検討  【方向性】 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センターの大原源二先生が現在開発・研究中の収穫期及び収量の予測モデルを活用して、当委員会の情報として発信することについて検討する。	<p>●（独）農業・食品産業技術総合研究機構 大原源二先生の招聘（第4回）</p> <p>●予測モデルの検討（大原先生と連携）</p> <p>●第6回を目途に試行</p>																						
(4) 消費情報の拡充・強化  【方向性】 ① データの拡充 ・小売価格（総務省） ・消費者物価指数（総務省） ・外食費支出額（総務省） ・小売販売額（チェーンストア協会）  ② 小売価格調査の実施（新規） （概要） 都道府県野菜価格安定法人に委託し、全国各地の野菜の小売価格を定期的に定点調査。	<p>●第4回から開始</p> <p>●小売価格調査の実施（7月から）</p> <p>●調査結果の情報委員会への提供（第5回から）</p>																						
(5) 委員会の見通しの決定  【方向性】 基礎データに基づいて、委員の皆様からそれぞれの御意見を出していただき、その結果をとりまとめ、ご了承をいただいた上で情報委員会の見通しとして野菜需給協議会に報告	●第4回から開始																						